

「7人制専門の 選手強化急務」

五輪見据え村田代表監督

ラグビー

RUGBY

まりそつだ。7人制日本代表の村田互監督にゲーム特性や強化をめぐる展望を聞いた。

グラウンドは15人制と

同じ広さで、試合時間は

2016年五輪で追加実施が有力な7人制ラグビー。国内での関心も高

7分ハーフ（休憩1分、大会決勝は10分ハーフで休憩2分）と短いですが、試合開始から息つく暇なく攻守やりあう。「まずスピード、そしてスタミナ」と村田監督。スクラムを組むFW3人も優れた走力が第一で、場合によってはBKの選手を起用する。

サインプレーなど決め



中国の躍進を警戒する日本代表の村田互監督＝東京都内で

ごとは減り、個々の判断で動く展開が続く。15人制が数日置きに試合を組むのに対し、2、3日連続で1日数試合ずつこなす。体力に加えて「メンタルも大切」。ラグビー強国では15人制と7人制の代表を掛け持ちする選手は少なく、専門化が進んでいるという。

7人制でひとときわ輝くのが、フィジー。変幻なステップ、緩急に富む走り、1993年から5回開かれてきたワールドカップ（W杯）を2度制している。そのフィジーを今年3月のW杯ドバイ大会で破って4強に進んだのがケニア。15人制の世界ランクは39位（日本14位）だが、近年、7人制を重点に鍛え、のし上がった。2008、09年の国際大会でニュージーランドや南アフリカから白星を重ねている。

アジア最上位の日本もW杯ドバイ大会は4戦全敗。村田監督は五輪実施となれば「人材豊かな中国あたりが力を入れてくるかも」と警戒し、トップ選手で競う国内大会の実施、適性を備えた若手の発掘を急務に挙げる。外憂だけではない。7人制代表への選手参加に消極的なチームがある。他の国際大会で認められている外国籍選手を五輪では起用できない。15人制も10年後のW杯日本開催に向けた強化を迫られる。

村田監督は「7人制と15人制の二兎（にと）を追うのは大変だが、ラグビー界全体で先を見た体制づくりに取り組まないといけない」と語る。